

そうじゃ総合教育会議 会議録

令和4年2月2日開催

1 開 会 令和4年2月2日 午後3時

2 閉 会 令和4年2月2日 午後3時40分

3 出席構成員

○市 長 片岡 聡一

○教育長 久山 延司

○教育長職務代理者 三宅 眞砂子

○教育委員 大山 敬子

○教育委員 劔持 江利奈

4 関係者

○教育部部長 服部 浩二

○学校教育課課長 在間 恭子

○こども夢づくり課課長 林 直方

○保健福祉部部長 吉田 啓

○校長会会長 東 長典

○校長会副会長 下田 和浩

○幼稚園・こども園園長会副会長 岸越 緑 ○幼稚園・こども園園長会副会長 平田 茂美

○幼稚園・こども園園長会 多田 仁美

5 事務局

○総合政策部部長 脇 奈七

○政策調整課課長 江口 真弓

○政策調整課主査 前原 夕美子

○政策調整課主任 井関 奈津紀

○政策調整課主事 下野 知恵

6 会議録署名人

市長 片岡 聡一 教育長 久山 延司

7 協議事項

幼稚園・認定こども園の業務継続のための対応について

8 議事経過の概要

次のとおり

開会 午後3時

○司会（脇部長）

本日の会議は、幼稚園・認定こども園の業務継続のための対応について市長と教育委員会の委員の皆様とで協議をしていただくために開催するものです。なお、そうじゃ総合教育会議は原則公開することとされており、また、議事録を作成し公表するものとされております。そのため、録音および写真等の撮影についてお許しいただきたいと思っております。それでは初めに片岡市長からご挨拶申し上げます。

○市長（片岡市長）

前回に続いて矢継ぎ早の会議だが、子どもの感染が止まらなくなったため開催した。前回は、「もうPCR検査をしません。1人でも感染者が出た場合、最終接触日の翌日から4日間を学級閉鎖する。」ということを取り決めた。センセーショナルでショッキングなニュースだったかもしれない。現在、感染者が増加し市内で300人近くいる。ほとんどが、子どもから、その家庭から、あるいは外部の感染者の濃厚接触者が大人と接触することで感染し、それがまた子どもに移り、その子どもがまた他の子どもに移していくという子ども媒体の感染だ。子どもの感染が後を絶たず、幼稚園の先生が出勤できなくなり、幼稚園を閉じざるをえない状態まできている。また、保育士さんの子どもが通う幼稚園や保育園が臨時休園し、出勤できる保育士さんがいなくなっている。子どもに感染者がいなくても、保育園業務の遂行に支障をきたしている。医療崩壊と同じく保育崩壊、幼稚園崩壊、小学校崩壊が起きている。教える側のマンパワーのショートによって市内の学校がやっていけなくなっている。それを打破するために、保育士の免許を持っている幼稚園の先生、OB、そして潜在保育士の方を、欠員している幼稚園や保育園に派遣する。そういうマンパワーの仕組みを作らない限り崩壊してしまう。これは総社市だけでなく、現在の我が国全体のテーマだと思う。

次に、総社市役所の議論ではあるが、家族が陽性者あるいは濃厚接触者になった場合、市長命令で休むよう御達しをしている。市役所や消防隊がクラスターになると、最後の砦が無くなってしまふので、本人は休んで周りの人員でカバーすると決めている。しかし、そのルール通りやっていたら、もはや幼稚園、認定こども園、救急救命士が回らなくなってきた。それらの職種はエッセンシャルワーカーに入っていないが、指定する業務内容によっては、朝検査をして陰性であれば出勤を認めるという制度に変更せざるを得ない。その善非につい

てご協議願いたい。

○司会（協部長）

続きまして教育部服部部長からご説明をお願いします。

○教育部部長（服部部長）

先週に引き続いての総合教育会議となりました。本日の協議事項でご意見をいただきたい項目は、幼稚園等での業務継続のための対応策です。資料1をご覧ください。現在、新型コロナウイルス感染者が急増中です。総社市におきましても先月の中旬から連日30名前後の感染者数となっています。いろんな面での出勤、仕事ができないケースが増加しており、幼稚園等で運営が厳しくなっています。お預かりできないと、お子さんだけでなく保護者の方も困ります。未就学児の保護者の方は、家にいて子どもを見ていないといけなくなります。仕事ができなくなることは深刻な課題です。市内でも困っているという声はかなり挙がっております。そういったなか、保育園、幼稚園の業務を継続するための工夫として、今日はこの資料にある3点をご提案させていただきます。

1点目に、ワクチン接種でございます。現在、3回目のワクチン接種が高齢者から始まり、64歳以下の実施に向けて準備を進めています。毎週木・土・日曜日に集団接種をしていますが、幼稚園の職員等の優先予約枠を設けて希望者への前倒し接種を進めたいと考えております。2回目接種から6か月経過で接種可能ですので、市内の小・中学校、幼稚園、認定こども園、保育園のスタッフであれば、市外の方でも接種をさせていただこうというものです。

2点目に、幼稚園の職員等が陽性者や濃厚接触者となるケースの対応です。現状では、療養期間、経過観察期間が10日あるいは7日と定められており、自宅待機となります。この場合、幼稚園や認定こども園の運営が継続できなくなってしまいます。そのため、園を超えた相互の応援体制を実施し、さらに保育園を含めた市内全体の幼稚園・保育園のスタッフの応援の仕組みを新たに構築できないかと考えております。幼稚園・保育園のOB、経験者、あるいは資格や経験は持っているが恒常的に勤務はできない、いわゆる潜在保育士の方などにお力をいただき、不足するマンパワーへの一時的な応援に活かそうというものでございます。

3点目に、自分の子どもが学級閉鎖となるケースの対応です。市職員の子どもが学級閉鎖で自宅待機の場合は、親である職員は出勤を控えるという運用をしております。市内の学級閉鎖は現在7、8か所あり、当然その親御さんに市の職員が沢山おります。この場合も影響が大きく、今後は、同居の家族も含めて毎日の健康管理シートを厳重に徹底しながら、出勤を継続できるようにしたいと考えております。以上3点につきましてご意見をいただければと思います。

○司会（協部長）

それでは意見交換に移らせていただきます。本日は校長会から東校長，下田校長，園長会から岸越園長，平田園長，多田園長がお見えになっております。現場のお声としてぜひ園長会の方からご発言をいただければと思います。

○園長会副会長（岸越園長）

現在、大勢の子どもを預かっています。預かっている子どもや教職員を守る観点から、我が子が学級閉鎖中であれば、職員が出勤しないことは必要なことです。また、子どもをみる者がいない場合に、安心して休むことができる対応だと考えております。実際、学年やクラスを超えた合同保育は控えています。ですので、職員が複数休むと、正直なところをいうと職員の数が足りなくなります。例えば、私が補助に入るとなると、健康観察もしていますが、私自身が感染を広げないかという不安が高まります。先ほど説明があったような対応をしていただくと、園を運営する立場としては、運営を続けることができありがたいと思います。

○園長会副会長（平田園長）

園でもしっかり感染症対策を行っており、子ども、保護者、教職員は毎日健康観察を行っています。しかし、学級閉鎖等で職員が来られなくなった場合、やはり園運営としては厳しいものがあります。先ほどのお話にもあったように、毎日の健康観察を行いながら職員自身も出勤できるようになると保護者や子ども達のためにも安心して園に通えるようになりますので、とてもありがたいお話だと思います。

○園長会（多田園長）

認定こども園は0歳から就学前の5, 6歳のお子様をお預かりしています。3歳以上の子どもは頑張ってマスクを着用しています。3歳以上の子どもに密にならないよう言うと、少しは理解できますが、3歳未満の子はやはり難しいです。抱っこ、おんぶがとても大事な時期でマスクもできない状態で生活をしております。職員もすごく気を付けていますが、マスクを着けていない子どもと密に接しますので、お互いにリスクは拭えないと思います。対策を重点的に行ってはいますが、職員の人数が少なくなると合同保育をしなければならず、よけいに密も避けられないかと思えます。

現在、40人の職員がいる内、学級閉鎖等の影響で休まないといけない職員が15名おります。また、3人の職員が学級閉鎖や本人の事情で休んでいます。出勤できない職員がもっと出てくるのではと懸念しております。また、認定こども園は給食を作っております。調理員が感染すれば、給食が提供できない事態になります。給食室も密室で、誰かが陽性になれば、他の職員にどのような判定が下りるか分かりません。全員が何らかの状態出勤できなくなることも考えられますので、そのリスクは避けたいと思います。学級閉鎖等の影響があると、出勤できる可能性がさらに減ります。そうなれば給食も心配です。

○司会（脇部長）

続きまして、自由協議とさせていただきます。ご意見はございますでしょうか。

○教育委員（三宅教育長職務代理者）

連日PCR検査をしており、子どもの陽性例が出ております。経過を見ていますと、学校や幼稚園を早退し、途中で帰った場合で広がっています。家族に調子の悪い方がいたら、できれば休んでいただきたいです。現在、感染者が出たら4日間休むようにしていますが、そうすればあまり広がらず収束している感じです。子ども達は痛い検査を頑張って受けており涙が出ます。子ども達にそんな痛い検査をさせなくて済むようにしていただきたいです。

保育園や幼稚園の先生方の助け合いの制度は大変良いと思います。というのは、介護関係ではそのような制度をこの機会に作りました。今までは高齢者の間で広まっていたが、今は子ども達の間で広まっています。広がり方がインフルエンザ感染と同じような感じです。まず大人から子どもに移り、幼稚園などで広まり、それがさらに家庭内に広がっていきます。

インフルエンザの収束はだいたい2カ月ですが、去年、今年はインフルエンザが全く出しておらず、今の感染対策はインフルエンザに対して非常によく効いております。でも、コロナは流行っており、それだけ難しい病気だと思います。しかし、予防接種や新薬など出てきており、出口は見えてきます。子どものコロナワクチンがアメリカで認可され、日本でも3月から始めることになっていますが、希望者はぜひ打っていただけたらと思います。副反応はあまりひどくはなさそうなので、やがては皆が受けるようなワクチンになっていくと思います。新しいワクチンが出て来たらインフルエンザワクチン並みに皆が受けるようになり、やがてはインフルエンザと同じような病気になるのかなと思います。だから、今はもうひと頑張り協力していただけたらと思います。この提案自体は非常に妥当なものと思います。

○市長（片岡市長）

前回の総社市感染症専門者会議を受けて、市民向けのメッセージとして「念のためのPCR検査を受けるために病院へ行くのは止めましょう。」「風邪症状のある方は、あらかじめ医療機関に電話をしたうえで診療時間内に受診しましょう。」と発信していますが、現状は変わりましたか。

○教育委員（三宅教育長職務代理者）

いいえ。お子さんはすぐに来られます。保育園で「病院へ行って診てもらってください。」と言われることが多いです。今の子ども達は髄膜炎のワクチンを打っていますので、熱が高くても1日くらいは様子を見ても間に合うと思います。小さな子どもは別にして、すぐに病院へ来るのではなく1日くらいは、お家で様子を見ていただきたいです。夕方の駆け込みの受診が多いです。今、流行っているのは感染性胃腸炎とRSウイルスです。小児科医で流行状況を情報交換しています。コロナについても情報交換をしているので怪しいときは重点的に検査しています。検査時は、車で待っていただき、電話で問診をして防護服を着て外で診察をするようにしています。結構大変で15人も診ると疲れ果てます。

○市長（片岡市長）

もう少し発信した方がいいですね。

東先生、小・中学校で学級閉鎖がどんどん出ていますが、PCR検査をしなくなったこと

で抗議など来ていませんか。

○校長会会長（東校長）

本校ではそのような事はありません。

○校長会副会長（下田校長）

本校も親からの苦情・抗議等はありません。ただ先日、微熱が出たから、病院へ行きPCR検査を受けて数日休まれたお子さんもおります。やはり保護者から見ると、少しでも熱が出ると心配で病院へ行きます。検査等を受けられるならば待機せざるをえないと思います。

○教育部部長（服部部長）

少し補足です。3点目の対応策の、我が子が学級閉鎖となるケースの対応でございます。この場合でも業務を継続できるという制度でございますが、その際に行う健康管理の中身についてですが、基本、朝、晩の検温をしっかり記録していただきます。熱、咳、喉の痛みなど風邪、コロナの症状に近いものが少しでもあれば記録してもらい、症状がある場合は出勤を控えていただくことが目的です。これは職員本人だけでなく、同居のご家族も含めたものです。事前に少しでも体調が優れない場合は、学校、園への集団の中に入って来ないように徹底していきたいです。特段の検査をするということではなく、ご家庭でできる検温や、子どもの健康観察をしっかりしていただくということです。

○教育委員（剣持委員）

3番目の対応策が一番気になっていたことでしたので非常に安心です。1番目や2番目の対応策は総社市のことなので積極的な対応実施ができると思います。2番目の対応策は難しいかと思いますがご提案をありがたく思います。

質問ですが、小・中学校の教職員の現状はどうでしょうか。

○校長会会長（東校長）

小・中学校の現状ということですが、教職員については問題ないということで出勤しています。3番目の対応策は、小・中学校に合わせる取り組みになっております。市が独自で、

念のために休むということで、幼稚園現場は非常に運営が大変だと聞いています。ただ、同居家族の検温まで含むので、厳重な扱いをやっていくということでございます。

○教育委員（三宅教育長職務代理者）

ワクチン接種について質問です。他市に住む方で接種券がまだ届いていない方は、総社市で接種を受けられますか。

○こども夢づくり課課長（林課長）

保育協議会から要望があり、1回目2回目の接種時に市外の方も総社市で打てるという対応をしております。3回目接種のときも、接種券がなくても総社市で打たせてほしいという話がありますので、保健福祉部と協力しながら進めてまいります。

○保健福祉部部长（吉田部長）

2回目の接種が終わったという接種済証を確認させていただき、接種日から最低6カ月過ぎていれば接種できるということを、特例的に現場で判断していきたい。保育スタッフについては特例を適用するというので、園や学校に分かりやすく伝えたいと思います。

○教育委員（剣持委員）

対応策2番目の園を越えた職員応援は、非常にありがたいと思います。今お話を伺った園も職員が不足して困っているので、服部部長の言われたように、OBや潜在保育士の方も大きな力となると思います。OBや潜在保育士で、スタッフになってもよいと言われる方は実際にいらっしゃいますか。

○教育部部長（服部部長）

どの園も厳しい状況でありますので、外部からの応援を考えております。経験者OBで、3名ほどご協力いただけるかなという方がおられます。そういったところを中心に当たり、リストを作り、ご要望があればマッチングさせていくスタイルでいきます。OBの方がメインとなると思いますが、潜在保育士の方も掘り起こしてお声掛けをしていきたいと思えます。

○市長（片岡市長）

今朝、クラスターが出た第3ひかり保育園へ行ってきた。今日から園に子ども達が帰ってきた。園長にあいさつすると泣かれた。我々は公立学校の話に終始しがちだが、民間保育園、市立幼稚園であれ総社市の子ども達に違いはない。潜在保育士、OB保育士を集めて幼稚園や認定こども園だけを対応していたら、保育園は放っておくのかということになる。無認可も含めて、できるだけ多くの方がスタッフバンクに協力してくれたらよいと思う。三宅先生がおっしゃるように、「終わりの始まり」かもしれない。皆で乗り越えていこう。一人でも多くの人々の理解を得て、「皆で支えあう。皆でしのぎあう。」ということをしなさいといけない。

小・中学校の先生は保育士の免許を持っていないのか。

○学校教育課長（在間課長）

あまり持っていないが、なかには幼稚園教諭の免許を持っている方はおります。

○市長（片岡市長）

いいね。急に言ってもいけないが、可能性はある。例えば小学校の先生で、幼稚園教諭の免許を持っている先生が、幼稚園の手伝いへ行くことはできるか。

○校長会会長（東校長）

難しい部分はあるかもしれませんが。研修扱いなどを使えばできるかもしれません。

○市長（片岡市長）

どうにもならなくなれば、考えてもいいかもしれない。

○司会（脇部長）

それでは委員の皆様のご意見として、市の方針につきましては異論はなしということでよろしいでしょうか。

その他ご意見がないようでしたら閉会とさせていただきます。

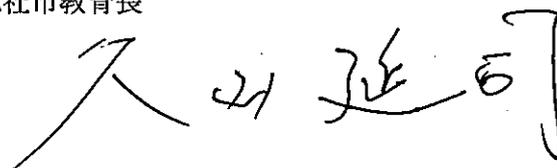
閉会 午後3時40分

以上、記録の内容が正確であることを証するためにここに署名する。

署名人 総社市長

A handwritten signature in black ink, consisting of stylized Japanese characters that appear to be '尾崎 隆一' (Ozaki Takahiko).

署名人 総社市教育長

A handwritten signature in black ink, consisting of stylized Japanese characters that appear to be '久山 延司' (Hisayama Nobuhiko).